

校友会報

日本大学工学部校友会
第80号 平成29年3月1日



INDEX

● ごあいさつ	2
● 平成28年度 第59回通常総会報告	3
● 第36回「母校を訪ねる会」を開催	3
● 校友会キャンパスツアー報告	5
● 母校を訪ねる会の今昔	6
● 「母校を訪ねる会」校友茶会	8
● 平成28年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して	9
● 支部活動報告	15
● 工学部NEWS	18
● 校友会NEWS	20



ごあいさつ

工学部長 出村 克宣

平成 29 年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。加えて、学習支援の奨学金、クラブ活動や北桜祭の支援、就職活動支援など、日頃より、工学部の教育・研究活動に多くのご支援を賜っており、厚く御礼申し上げます。



工学部は、平成 11 年に教育・研究のキーワードを「ロハス」と定めて諸活動を展開しており、その実践を通して得られた成果を踏まえながら、種々の改革に取り組んできました。その結果、「日本大学工学部=ロハスの工学」という学部のコンセプトが社会一般に知られるようになり、これまで取り組んできた諸活動が、入学志願者数の増加、高い就職率、科研費等外部研究資金の導入、安全・安心な教育環境整備、郡山市や外部研究機関等との連携による地域貢献活動などに繋がっていると考えております。このことは、教職員が一丸となって、工学部の教育・研究活動に取り組んでいる現れであると思料していると

ころです。

さて、このような工学部の教育・研究活動については、工学部の HP に掲載させていただいております。その中の話題として紹介したいのが『日本大学工学部紹介ムービー』です。工学部の教育・研究テーマとしての「ロハスの工学」を知っていただく内容で構成しております。又、学内広報誌『工学部広報』が PDF ファイルで閲覧可能であり、季ごとの特集並びに、学生や教員に係るニュースをとりまとめて掲載しております。是非、HP にアクセスしていただき、母校工学部の現況をご覧いただきたく存じます。

工学部は本年創設 70 周年を迎ますが、これまでの教育・研究活動を継承すると共に、その活動成果を適宜検証しながら、今後とも、教職員一丸となって工学部の運営に携わってまいります。

校友の皆様には、今後とも工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友諸氏のご健勝とご活躍並びに、工学部校友会のますますの発展を祈念いたします。

校友会会长 手塚 公敏



平成 29 年の早春にあたり、校友の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、校友会に対しても、常日頃、温かいご支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、昭和 33 年に発足した工学部校友会（以下、校友会）は、今年で設立 59 年を迎えました。その間、校友会員は 6 万人に達し、組織としての県支部が北は北海道から南は九州、四国に及び、その活動は全国で展開されるに至りました。これら各支部においては、お互いの融和をはかりながら親睦を深め、活発な支部活動が続けられています。

一方、日本大学校友会正会員の入会員数においても、本学部卒業生の入会者数は他の 15 学部校友会に比して多く、5 年間連続して入会員数がトップであります。これらを鑑みると、工学部こそ日本大学がスローガンに掲げている“絆”的精神を実践し、数ある校友会の中でも最も強い絆で結ばれ、校友会としてあるべき本来の姿を示している学部であると自負しております。会員の皆様には、最寄りの地域^{注 1)}で支部の集まりが開催されますときは、是非ともそれに参加していただき、これまで以上の絆の輪を広げて頂きたいと思います。

工学部新卒者の就職率は、ここ数年間、日本大学 15 学部の中で最も高い就職決定率（約 99% 以上）であります。これは、校友会の支部役員を父母会の支部総会に出席させていただき、学生およびご父母の就職に関するご希望をお聞きし、現状を相互に理解した上で、求人に関する情報を有効に活用する機会を設けさせてもらっておりますが、この様な地道な努力が工学部の就職率を高めることに、微力ながらも貢献していると考えております。

次に、ここ数年継続している事業として、全国の工業

高校で教鞭を執られている工学部校友会教員部会（通称：アカシア教育研究会）の先生方と工学部の教職員との懇親会が設けられております。これは工学部の年間事業である「工学部学術研究報告会」に論文投稿および発表された教員部会の先生方の、発表後の慰労と工学部の教職員との懇親を兼ねて開催される会でありますが、教員部会の先生方は何方も母校を思うお気持ちが熱く、今後とも母校の発展に貢献いただける方々と考えますので、益々の盛会を期待いたします。

更に、ここ数年、「母校を訪ねる会」に来校される「今浦島」の感のある卒業生のために、学内案内と現状説明を目的とした「キャンパスツアー」を企画しました。卒業生にはかつての状況把握をする上でとても好評のようですので今後も継続していきたいと思います。

一方、我が工学部校友の実社会における活躍に目を向けてみますと、佐藤勉君（土木工学科・昭和 50 年卒）が現内閣において平成 25 年 10 月から連続 3 期の自民党国会対策委員長の要職を務めておりましたが、引き続き昨年 9 月から衆議院・議院運営委員長に就任されました。これは校友にとっても誇りであると思っております。

工学部校友会の平成 29 年度・通常総会は 4 月 22 日（土）に開催されます。ここで私事ではありますが、私は平成 20 年 4 月に会長職を拝命し、以降、3 期・9 年を務めてまいりました。これも偏に渡澤正典幹事長始め校友会役員、地方支部役員並びに校友会員の皆様方の、永年にわたる身に余るご厚情があったから大過なく会長職を務めることができたと思っております。

しかし、この度の通常総会をもちまして私は会長職を辞任し、その席を後進にお任せすることに致しました。この紙面から申し上げるのは大変失礼とは存じますが、これまでご支援・ご協力下さった方々に心より御礼申し上げる次第であります。

末筆とはなりましたが、皆様のご健勝とご発展を切にご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

注 1) 校友会会報 P23 「支部連絡先一覧」参照。

平成 28 年度 第 59 回通常総会報告

平成 28 年 4 月 16 日(土)、工学部 62 号館 3 F 大講堂にて、平成 28 年度第 59 回通常総会が開催されました。本年は参加者にキャンパスの桜を楽しんでもらおうと、例年より一週間、開催日を早めたのですが、総会開催日の一週間前に満開を迎えてしまい、惜しくも総会当日に参加者の皆様にご覧いただくことが叶いませんでした。

議事に先立ち議長に脇山亨治氏(建 29)、議事録署名人に柳啓氏(建 19)、田村賢一氏(機 30)、書記に柳沼由美子氏(化 30)、田井秀一氏(電 38)をそれぞれ選出、承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決されました。

議事の終了後、各支部による現況報告が行われ、各支部独自の活動の紹介や若い校友の参加者が減ってきている現状などの意見が述べられました。



また、本年も「体育会」「学術文化サークル連合会」「北桜祭実行委員会」「応援団」などの学生が会に参加をしました。

総会終了後の懇親会は日本大学関係者をはじめとした来賓の方々をお迎えし、総勢 130 名程のご参加をいただきました。来賓のご祝辞を賜り、乾杯のご発声の後、懇親となりました。懇親の最中、応援団による演舞披露なども行われ、大変盛り上がった会となりました。

総会、懇親会に参加することで校友同士の懇親を温めることの他、仕事面での人脈を広げることが出来る一面もあります。また、様変わりしていくキャンパスをご覗いただけますし、今年こそ満開の桜が見られるかもしれません。

校友の皆様の多数のご参加をお待ちしております。



第 36 回「母校を訪ねる会」を開催



第14回・昭和41年卒

北桜祭（工学部祭）の最終日にあたる平成28年10月23日(日)、第36回「母校を訪ねる会」が開催されました。お陰様で天候にも恵まれ、今回は263名という例年より多くのご参加をいただきました。懐かしい旧友や恩師との再会を喜び、仲睦まじく記念撮影や会話をされる皆様のお姿が窺えました。懇親会では、毎年恒例の応援団による応援・校歌斉唱が披露されました。久しぶりに聴く「日本大学校歌」に感極まり目頭を熱くされている方を見かけ、心をうたれました。大勢のご参加のもと盛大に開催できましたことを厚くお礼を申し上げます。次回は、15回、25回、35回、45回、55回の皆様が対象学年となっておりますので、たくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げております。



『第3回校友会キャンパスツアー』報告 ~新学生寮も見学~



母校を訪ねる会の今昔

工学部校友会特別顧問 佐藤 光正



昭和56年11月3日 第一回母校を訪ねる会

* [黎明] :

昭和54年、校友会は当時の会長武田仁幸氏のもとに校友会員名簿の管理方式を電算化する事業を起こし、完成までには3年を要しましたが、昭和57年に予定どおり完成しました。入学希望者の増加や就職率の向上などを主眼として校友への広報活動を模索していた時期でもありましたので、会員名簿の電算化は明るい示唆を与えました。

これを契機に、校友を母校に招き、工学部の現状を把握できるような企画の検討を行いました。種々検討した結果、現在の「母校を訪ねる会」の素案に至ったのでしたが、開催する日時や場所あるいは経費などの点で、実現が危ぶまれました。しかし、当時の工学部学生課課長田嶋文義氏の英断で、「母校を訪ねる会」を開催する運びとなりました。このとき役割分担は以下のように決定しました。

①学部は、経費を負担すること・日時場所の設定は学部祭期間中・歓迎アトラクションの開催・記念撮影・懇親会の設定などを担当すること。

②校友会は、総合的な運営企画を作成すること・校友への連絡や事務手続きを担当すること。

田嶋課長は、歓迎アトラクションとしてプラスバンドのドリルを提供することにしました。今まで学生服で演じていたブラバンを、もっと華やかなものにするため日大スタイルのユニホーム50着を新調し、さらに必要な楽器や器具類も取り揃えたのでした。

* [発足] :

母校を訪ねる会には、工学部の卒業生なら卒業年度に關係なくすべての校友が出席されて良く、更に校友が家族を連れで来ても良し、あるいは校友関連企業の方でも出席されて良し、と致しました。

しかし、広範で公平なのは良いことではありますが、これでは漠然として来訪する校友の員数が読めないので、卒業後20年目の校友を対象として、来校促進の願いを込めて母校を訪ねる会の招待状を届けることにしました。

* [経過] :

ここで、いきなり昭和56年の第1回目から卒業後20年目に当たる校友を招待しては、それ以前に卒業された方々に対して、大変失礼なことではないかとの判断から、専門部の卒業生と第二工学部第1回卒業生（1回生）・2回生・3回生の4代の重複招待としました。

期待に違わず第1回目の母校を訪ねる会は、賑やかにかつ緊張感の漂う中で演じられたアトラクションで開幕され盛大の裡に終了することができました。第2回から第4回までも同様の考え方で進め、第5回からは本来の卒業後20年目に当たる校友を招待することになりました。

母校を訪ねる会も12回を迎えたとき、卒業後40年を迎えた校友も招待して欲しいとの希望があり、専門部卒業生と20回生の2代を招待しました。以後18回まで20年目と40年目の2代の招待で進められました。

会を重ね19回を迎えると、20年目だ40年目だ、では時が離れ過ぎているとの声が高まり、ついに卒業後30年目の校友も含めることになり、卒業後20・30・40年の3代を招待することにしました。以後22回まで続いたがこれも束の間、母校を訪ねる会第23回目からはさらに卒業後50年目を迎える校友に招待状を送ることになりました。すなわち、23回からは20・30・40・50の4代が招待対象卒回となったのでした。この4代の招待は第29回の母校を訪ねる会まで続けられました。しかし、卒業後10年も過ぎると、この変化の激しい世情に里心が生じたのか、卒業後10年も経たのだから招いて欲しいとの声が届きました。校友会ではこれを受けて、母校を訪ねる会第30回から卒業後10・20・30・40・50年の5代に対して招待状を送ることにしました。以後は5代で継続しています。

今年（平成29年）で37回目を迎えますが、招待状の発送先はこの5代の卒業生を対象とする予定であります。（P8・母校を訪ねる会招待者一覧表参照）

また、母校を訪ねる会の運営では、前半は学部長はじめ母校の教職員と参加校友各位とが一堂に会して大学の近況や校友からの報告談話などを語り合う会同形式とし、後半は交流の促進を願って懇親会とすることにしました。

* [参加費] :

母校を訪ねる会の発足当初は参加費無料で案内していましたが、回を重ねてから程無くして、出席校友の中から、わたくしどもは人並みに社会で活躍しそれなりの功を成している、どこにいても昼食代ぐらいは支払える筈だから、無料とはむしろ失礼ではないかとの叱責を蒙りました。

校友会ではこの声に応えて参加費を徴収する事としましたが、叱責の趣旨にしたがいその全額を学部に納入することになりました。ちなみに、現在は参加費



第1回母校を訪ねる会懇親会の模様

1,000円であります。

* **【付帯事業】：**

参加者から、学内を巡り、疲れたところで茶の一杯でも飲めるような所が欲しいなどの要望をいただきました。

これを受けて校友会では、平成19年第27回母校を訪ねる会から「校友茶会」を付加し、歓迎と休息の茶を一服差し上げることにしました。以後毎年茶会を開きすでに10年が過ぎました。これは発足当初の企画には無かった番組なので、場所の設定、茶会の運営、経費の負担など、すべては校友会が負うことになりました。茶会は毎年好評で、スタッフとして参加する工学部茶道部の学生諸君、ならびに学生の点前を指導されている茶道教授とその一門の方々にはご苦労をお掛けしていますので、感謝しているところであります。

平成29年は、工学部発足70周年目にあたります。この間に多くの恩師が学園を辞し、また諸施設も変容してきました。

久方ぶりに母校へ来た校友には、訪ねたい研究室が無くなっていたり、キャンパスの方も変わってしまい、昔日の面影は無く母校ではない様だと、しきりに嘆いている方々が散見されるようになってきました。

校友会では、折角来校された校友の貴重な時間が無駄にならないように、キャンパスを案内して巡る「キャンパスツアー」を計画しました。

これも校友茶会と同列に考えて校友会で企画運営することになりました。平成25年に第1回工学部キャンパスツアーを実施し、以後毎年行なっています。今後は、学生諸君の支援を受けて、より充実したツアーを実施できるようにする予定であります。なお、準備の都合上ツアーに参加される場合には、前もって校友会で準備する参加申込書で、出席のご意向を申し出て下さい。

母校を訪ねる会は、当初から日曜日に開催することにしていたので、出席校友の方々は、概ね前日の土曜日には郡山に宿泊されている事が多かったです。久方振りの郡山となると、旧友の誼で、集まれば成り行き次第の同級会になったり、同窓会となったりと、まるで前夜祭でもあるかのようだったと、しばしば伝え聞くようになりました。校友の交歓こそ母校を訪ねる会の大事な意義の一つでありますから、校友会ではこの胎動を形あるものとするため、前日に同級会の開催を奨励（決して強制で

はありません）することにしました。そのため招待卒回生のそれぞれに、同級会幹事となられる様な方々を探し出して、僭越ながら勝手に幹事役をお願いしております。

志を得てお引き受け戴いた場合には、幹事の方が同級会開催に関する案内文書などを作成されて、校友会事務局に届けて下されば、校友会の関連文書と共に同級生の方々にお届け致します。そのご幹事から、校友会に同級会を開催する旨の届け出と招待があれば、当日校友会からは、ご祝儀とともに役員を派遣いたします。

* **【歓迎】：**

専門部卒業の方あるいは卒業後50年以上の方には、ご招待のお便りを差し上げておりませんが、これは事務上のことで決して他意はございません。母校を訪ねる会の発足時に掲げた校友ならば何時でも誰でもご来校下さいとの理念に変更はございません。どうか大先輩として威風堂々ご来校下さい。

最近は若干足腰の弱い方々も来校されております。これにともない車椅子の準備、会場入り口での休息椅子の設置、一時荷物預り所の開設、などの要望がありました。校友会では早々に用意する予定であります。

なお、母校を訪ねる会は36回開催され、参加された校友の総数は5,567名となっております。また記念写真は、毎年度ごとに撮影して、校友会の資料室と工学部歴史資料館に保存されています。資料館はキャンパスツアーの拠点ポイントでもありますので、ご来校の折りには是非お立ち寄り下さい。

* **【謝辞】：**

校友会の大きな事業の一つである「母校を訪ねる会」は、工学部の全面的な支援のもとに、毎年盛大に開催して参りました。これも偏に工学部長はじめ工学部関係各位のご厚情とご配慮の賜と存じ上げ、母校工学部に対して深く感謝の意を表する次第であります。

校友の皆さんには老若を問わず、一人でも多くの方々が母校を訪問され、想い出を紡ぎ青春に還り、また、明日からの元気につなげて戴けるならば、「母校を訪ねる会」の意義はさらに深いものになると信じています。来校を心よりお待ちいたしております。終わりにあたり、日本大学と母校工学部の発展と校友諸氏のご健勝を祈念いたします。



母校を訪ねる会招待者一覧表

平成 28 年 10 月 23 日 現在

開催会	開催年	招待卒回生	備 考
1	昭56年	専門部・1・2・3	
2	57	4・5・6・7	
3	58	8・9・10	
4	59	11・12	
5	60	13	
6	61	14	
7	62	15	
8	63	16	
9	平1年	17	
10	2	18	
11	3	19	
12	4	専門部・20	
13	5	1・21	
14	6	2・22	
15	7	3・23	
16	8	4・24	
17	9	5・25	
18	10	6・26	
19	11	7・17・27	
20	12	8・18・28	

開催会	開催年	招待卒回生	備 考
21	平13年	専門部・9・19・29	
22	14	10・20・30	
23	15	1・11・21・31	
24	16	2・12・22・32	
25	17	3・13・23・33	
26	18	4・14・24・34	
27	19	5・15・25・35	
28	20	6・16・26・36	
29	21	7・17・27・37	
30	22	8・18・28・38・48	
31	23	9・19・29・39・49	
32	24	10・20・30・40・50	
33	25	11・21・31・41・51	
34	26	12・22・32・42・52	
35	27	13・23・33・43・53	
36	28	14・23・34・44・54	
37(予)	29	15・25・35・45・55	

校友茶会開始

キャンパスツアー開始

「母校を訪ねる会」校友茶会

今回も母校を訪ねる会に併せて、毎年好評の校友茶会を開催しました。

卒業生をはじめ、たくさんの皆様においでいただき、茶席は大盛況でした。

茶道部の学生により、お点前したお茶と秋を彩るもみじの和菓子が供されました。

訪れた皆様には、茶道による日本の伝統文化「おもてなし」を堪能していただくことができました。



校友茶会を開催して

生命応用化学科3年 長尾 宗慶

例年に引き続き、今年度も母校を訪ねる会に併せまして、校友茶会を開催させていただきました。

今年度は天候に恵まれ、晴れやかな気持ちでお茶会を開催することが出来ました。そのお陰か、昨年度より多く用意致しました和菓子もすべて捌き切るほど盛況ぶりでございました。私が茶道部としてこの校友茶会に参加致しまして、今年度で3度目でございますが、年を重ねるごとに用意する和菓子の数が増え続け、そのすべてを訪れて頂いた方々にご提供することが出来たことは、茶道部が積み重ねてきた成果の表れであると感じ、とても喜ばしく、そして誇らしいことであると感じました。

今年度のお茶会、参加して下さいました皆様に満喫して頂くことが出来ましたでしょうか。私たち茶道部の部員は日々研鑽を積んでいる身ではございますが、まだその日も浅く、至らない点ばかりでございます。しかし、母校を訪ねる会に併せて来て頂いた方々や、偶然見かけて寄って頂いた皆様に、普段味わえない茶道の文化に触れ、少しでも楽しんで頂けるように「おもてなしの心」だけは精一杯お届け出来るように努めておりました。その甲斐あってか、訪れてくれた方々の多くに感謝のお言葉を頂

くことができ、皆様が楽しそうにご歓談していらっしゃることでこちらまで嬉しい気持ちになることが出来ました。

今回最も印象に残っている事が、母校を訪ねる会にいらっしゃっていた方の中で、去年も校友茶会に訪れて頂いた方が今年も足を運んでくださり、「今年もよろしく」といって席について下さったことです。毎年続けていくことで母校を訪ねる会に参加している方々の中でも校友茶会が恒例のものとなり、母校を訪ねる楽しみの一つに加わることが出来れば、これほど嬉しいことはございません。そうなれるよう、これからも茶道部が一丸となって稽古に励み、技術を高めることによって校友茶会に参加して下さった皆様をおもてなしていきたいと思います。

最後に、母校を訪ねる会の参加者の皆様、私たち茶道部が稽古の成果を発揮するための場を用意して下さった校友会の方々、そして私たち茶道部を指導して下さる馬場教諭、佐藤教諭に多大なる感謝を申し上げるとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げることで結びの言葉とさせて頂きます。



平成28年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

進歩発展の母校、日大！

土木14回卒 佐々木洋志

昭和38年、私は土木の道を志して日本大学第二工学部の門をたたきました。大学のキャンパス…それは、古くて黒い木造の建物が並び、私の期待を裏切るような光景でした。しかし新しい建物の落成式があったりして、キャンパスは活気を帯びて躍動しておりました。阿武隈川のアカシア花の下で昼食を食べました。

山の好きな私はワンダーフォーゲル部に入りました。部が出来て3年目の私たちは、毎週木造の55号講堂前の芝生に集まって、活動の打合せをしました。山に行く日の昼食は30円のうどんと60円のカレーでした。100円で10円のお釣りがきました。

夏合宿では重いザックを背負って山を登り、海岸を歩き、冬はスキー合宿で雪焼けになりました。その頃、東京オリンピックがありました。ある夜、学部祭の準備をしながらバレーボールのソ連と日紡貝塚との決勝戦を校内放送で聞き、金メダルに万歳をしました。

私の青春の全ては日大にありました。

この度、「母校を訪ねる会」のご案内を頂き「エッ？もう50年？」と思いつつ、これが最後？とも思いながら喜んで参加させて頂きました。

キャンパス内は「北桜祭」で賑わっていました。ワングルは焼き鳥を出店しており、後輩に声をかけました。現役が19名もいると聞いてびっくりし、うれしく思いました。展示室には夏合宿の様子が地図と写真で展示されておりました。何と台湾にまで遠征した活動に感動しました。

キャンパス内を散策しました。広大な敷地に新しい建物が数多く並び、自分は浦島太郎のようでした。歴史館を見つけ中に入りました。入学当時のキャンパスの航空写真があり、ようやく故郷に帰った気分になりました。図書館前の広場には、ワングルが結成30年を記念して贈呈した「ロダンの考える人」の像がありました。学生さんたちが店の呼び込みなど、生き生きと動いておりました。50年前と同じ青春が満ちておりました。

23日「母校を訪ねる会」では、41年卒業生での記念撮影。人世の為に汗を流し年輪を重ねた同級生が大勢集まり壮観でした。母校を愛する気持ちが漂っていました。それから62号館での懇親会。ロビーでは茶道部



の抹茶の接待のおもてなしがありました。会場には同窓生が溢れておりました。出村工学部長の力強いご挨拶、在校生は4,900名とのこと。手塚校友会長の挨拶も6万人の卒業生への熱い思いがありました。応援団による日大校歌、久しぶりに歌ううちに涙が溢れました。日大のOBで良かった。そうしみじみと思ったことでした。

一 半世紀ぶりの校庭に今年の枯葉はらり散りくる —

土木14回卒は休石温泉・太田屋にて懇親会を開きました。現役で仕事をする者、ゴルフ等の趣味に生きる者、孫の相手や病気と闘う者など様々ですが、日大で学んだからこそその人生がそこになりました。南京玉すだれの踊りもあり盛り上りました。

ワンダーフォーゲル部は、来年「結成55年」を迎えます。今、東京での記念行事の準備が進んでおります。結成30周年は郡山にて、國分欽智学部長他18名の来賓を迎えて盛大に開催されました。その後の25年間は沈黙の期間になっておりましたが、55周年でまた復活します。ワングルに籍を置いた55年間の約300名に声をかけ、現役も招待して、東京で盛大に開催したいと思っております。これも「母校を訪ねる会」で招待して頂いたお陰と思っております。ありがとうございました。

—母校を訪ねて甦る50年—

建築14回卒 中村 弘

我々が学んだこの第二工学部建築学科は、これまで歩んだ建築人生の全ての原点であり、まさに第二工学部最後の学生となってここから始まっている。今日、アカシヤの林に沿って流れる阿武隈川と安達太良山を背にしたあの金谷橋が見えた。感傷に耽る間もなく校門を過ぎて目にしたキャンパスは新しい建物が並び既に木造の建物も消え当時の面影などない。導かれるまま会場へ急ぐ、恩師や旧友との再会に話は尽きることがなかった。また、学内展示では建研の後輩の説明を聞くが、真剣に取り組む学生の姿に当時の己を見る思いとなる。

母校を訪ねる会が近づくにつれ友や大学への思いは半世紀の時空を超えて一気に学生時代に戻してくれた。あ

の当時は、学部名変更に学部長室を訪ね、卒業直後に念願の工学部と成り、それを確かに目撃もした。詰襟にT文字を誇らしく付けT定規を肩に構内や街を歩く。ケント紙はどこだ…。工学祭でも部室でも泡を飛ばして建築を語り合う。建築研究会、建築学生会議、それに谷川師の新会、新建築のコンペに応募など都会の建築情報に飢え、コンプレックスを癒せずに理工学部でAll Day大建築展を実現させて弾けました。下宿では徹夜で麻雀、街ではパチンコや先輩と飲み屋がよい、小喧嘩、ジャズ喫茶など。また、時には阿武隈川をジープで横断したり、郡山女子短大生と街中デザイン展示会、それにちょっぴりの恋。歳末には手も握れないダンスやコンサート、労音、映画…。挙げ句の果てに専門の単位不足が心配となり、一升瓶をぶら下げて師の玄関にも立った。ここまで記すと私に限らず思い当る同輩もいるのでは…。実に、学生生活を充分に謳歌して懐かしく今ここにいる。

昨夜は、磐梯熱海のホテルで久し振りのアカシヤ14の同期会(28名)に夜更かしで語り尽くせぬまま朝風呂にまで持ち越す。やはりそれぞれの再会が叶えられた幸せを嗜み占めて次も元気で再会を約束して別れた。建築学科万歳！



卒業50年母校を訪ねて同級クラス会

機械14回卒 宮田 健児

校名最後の第2工学部、卒業後50年「母校を訪ねる会」のご案内をいただきました。

経過をたどれば今まで有志による同級クラス会を計画し実施してきましたが、初回有志会が平成17年10月18日福島県石川町母畠温泉八幡屋に11名のメンバーが壮観な顔ぶれで、翌年平成18年に第26回「母校を訪ねる会」が開催されました。

この時にはクラス仲間の依田教授がキャンパス案内を引き受けて下さいまして母校の発展した姿を心強く実感致しました。60周年記念館の展望ラウンジ、食堂などは感動するばかりでした。クラス会は磐梯熱海温泉ホテル華の湯会場、参加者18名、大越君からの代表挨拶が思い出されます。

その後平成 21 年 10 月 8 日～9 日、有志クラス会を広島県尾道千光寺荘旅館にて、幹事の川辺君の地元で因島観光を兼ねて 12 名参加、夫婦 2 組共々に酒を酌み交わし楽しい宴会となりました。

そのうちに次回の「母校を訪ねる会」の対象年度は何時かと尋ねられ、ようやく 2 月に情報を得て今回の第 35 回「母校を訪ねる会」に参加できる記念すべき年になりました。

当日は機械工学科コースの受付机の上には 11 枚の名札が置かれていました。クラス出席者は 10 名でしたのでプラス 1 名のクラスメートからも宿泊同意の返事をいただき幹事として非常にうれしかったです。そこには地元郡山在住の大越君から事務局の申し出があり、参加要請活動の川辺君から推薦を受け、取りまとめ役として私がクラス会の発起人として実行する運びとなりました。

何より心が弾んだのは校友会から当時の水力及び実験担当の佐藤先生がおいでになるとの連絡があり心待ちにしておりました。

4 回目のクラス会を迎へ平成 28 年 10 月 23 日(日)磐梯熱海温泉金蘭荘花山を宿に、それぞれ心境を語り合い、ご臨席の佐藤先生からは校友会ご祝儀までいただき、その上に歓喜に満ちた実のある体験話、健康長寿の話など感銘を受け当时を思い出して熱い気持ちになりました。余興では松宮君から見事なバイオリンの演奏があり、なごやかな雰囲気を盛り立て楽しいひと時となりました。

二次会は幹事の部屋で懇親を深め明日の行動を語り郡山駅直行 6 名と猪苗代町史跡めぐり 5 名に分かれて散会しました。

そのうちに、それぞれの方々から余韻の残る便りをいただきましたが、これも「母校を訪ねる会」があればこそと思い母校のさらなる発展を祈念して再会を希望しました。



早いもので卒業してから 50 年の歳月が経ち、当時の仲間たちと再会を果たすことが出来ました。

展望ラウンジからは発展した郡山の街並みを眺め、当時ワンダーフォーゲル部員として廻った山々を一望する事ができ、感慨もひとしおです。

会場では応援団による校歌や応援歌、日大節の披露があり、懐かしく聞き入りました。今回我々電気科の応援団ホープの大越君が出席出来なかったのが残念でした。また 40 周年ではなかった茶道部のお茶の接待を受け、美味しいお抹茶を頂き、同時に行われていた「北桜祭」も楽しみました。

キャンパスツアーに参加して貴重な資料や機器などに接することができ後輩たちの技術のすばらしさに感心し、これからも彼らの活躍を期待しています。

当日は福岡、広島など遠方からの参加者もありましたので、郡山から東京に移動して 7 名で懇親会を行いました。

当時私の下宿先に親元から送られてくる食糧品（何も食べるもののがなかった時のインスタントラーメンなど）目当てに皆で集まつたことや、仲間の一人が酔って軽自動車に足を引かれてひっくり返った話など、色々な話題で大いに盛り上がりいました。

この際皆で決めたことは、このたびの母校を訪ねる会は最後となるので、2 年後秋に 14 回電気科のクラス会を伊豆で予定したいと考えています。

幹事は角田さん、サブは私尾崎です。

その節は万障繰り合わせの上、是非ご出席頂きますようにお願い致します。なお H18 年 10 月に開催された時の同級会出席名簿 16 名に記載されていない方や住所などが変わられた方は、お手数ですがご連絡を頂きますようにお願いいたします。

●連絡先 幹事 角田 正宏

50年を考える

工化 14回卒 関矢 隆

卒業後 50 年の「母校を訪ねる会」にお招きいただき、感謝申し上げます。

当会は卒業 50 年後が最後ときき、格別な思いで参加しました。

当日（平成 28 年 10 月 23 日）は、訪問直後から茶道部のみなさんによる「校友茶会」で手厚い「おもてなし」を受け、その後記念撮影、懇親会、キャンパスツアー等が催され、あっという間に時間が経過してしまいました。

50 年前は、兵舎が残り、建物は 1、2 号館と数棟の実験棟があったにすぎないキャンパスが、今や 70 棟の建物が建ちならび、全体的にきれいに整備された環境に変わっていました。

自分にとっては、あっという間の 50 年であったような気がしますが、改めて 50 年の歳月の重みや意義を感じて複雑な気持ちになりました。

一方で、懇親会のアトラクションの一つとして行われた応援団による演舞は、50 年前そのまま思い出させ、日大魂はしっかりと後輩たちに受継がれ、脈々と生き続けているのだと感じたものです。

懇親会が始まる前に少し時間があったので、キャンパス内を散策し、資料館に立寄ったところ、そこに草創期の比色計とガスクロマトグラフが展示されていました。

いずれも自分が卒業後お世話になり続けた分析計でしたので、非常に興味深いものを感じました。比色計は、デュボスク比色計に似ていると思いましたが、50 年前はすでに光電比色計が存在しました。その後光源、検出器、試料セル等が改良されて精度向上が図られる一方、データ処理装置が付属されたものもあり、非常に使いやすいものに変わっています。しかし、いくら変わってもその中でランパート・ベールの法則はしっかりと生き続けています。

ガスクロマトグラフは、今や分析計の寵児です。その利用範囲が広く使いやすいところから、次々と改良が加えられ、いろいろな検出器が開発され、感度、精度の向



上はもちろん、データ処理装置を具備し、時には質量分析計等と接続して使用されるなど、ますますその利用範囲が広がっています。この分析計を使用して、ノーベル賞を受賞された方が何人もおられます。しかし、ガスクロマトグラフの構造である、キャリヤーガス、カラム、検出器の構成は、今でも変わっていません。

当会の前日、工業化学 14 回生は、「H B ホテルバーデン」で久しぶりに同級会を開きました。10 人ほどの参加でしたが、皆それぞれ髪が白くなり、顔にシワがあり、50 年の歳月はすっかりその風貌を変えてしましましたが、学生時代の面影はしっかり残っており、会った瞬間から 50 年が凝縮して、学生時代の気分に浸ることができました。

懇親会では、50 年近く会いたいと思っていた土木工学科の友人にも会うことができました。まさに、感謝！感謝！でした。

総じて、50 年の間にはオリジナルな発明や発見は多々ありましたが、50 年とは、それぞれの原形を残しながら、すっかりその姿・形を変えてしまう恐るべき年月であることを痛感した次第です。

母校を訪ねる会に参加して

土木 24 回卒 佐々木 一

平成 28 年 10 月 23 日（日）、校友会より「母校を訪ねる会」の招待をいただき、卒業 40 年の今年、久しぶりに母校の門をくぐりました。この日は天候に恵まれ、正門の桜並木が見えて校内の懐かしい風景が広がっていました。開催要項に記載されている「受付」は 62 号館 1 階ロビーとの事。場所は土木の実験棟の一番奥にあり、私が在籍当時はこの建物はありませんでした。受付を済ませるべく中に入っていくとそこには「母校を訪ねる会」出席校友名簿が掲示されて居りました。土木 24 回卒を見ると 28 名の出席があるようです。自分の名前を探しつつ、同じように掲示版を見入る何人かの人たちがありました。胸の名札を見て挨拶はしたものの全く誰だか分かりません。記念撮影が 11：40 からという事で校内の散策をすることにしました。丁度「北桜祭」が開催されており、にぎやかあります。正門からの桜並木の下に学生たちの模擬店が店を並べてありました。何か食べたいとその店の一つで卵とウインナーなるものを購入し、模擬店にいた学生に聞いてみると彼は空手部所属との事。一緒に散策していた空手部 OB の柳沼正春君はその当時（40 年前）に空手部は学園祭で模擬店を出す様な事は無かったとの事。また 70 号館なる建物（在籍当時はありません）のまえを歩いていると学生服を着た女子学生の集団とすれ違った。腕の腕章に応援団の文字

が入っていた。応援団に女子それも大勢で…。応援団は硬派の男子学生のみと信じ切っていた私は今の状況がよく理解できていません。本館前に戻り1号館と図書館の間にある掲示板の所に来ました。そこに掲示板は無く喫煙所に変わっていました。記念撮影会場の中庭に撮影順番待ちの卒業生が集まっていました。声を掛けられ挨拶をするがやはり誰だか判りません。その後懇親会が始まり工学部長挨拶、校友会長挨拶と進み同席していた鈴木俊雄君や久野三男君らと少し話をしてみたが卒業してからの40年間の接点がほとんどないため、古い記憶を絞り出し話をするうちに少しづつ記憶が蘇ってきた。食堂は今の体育館の中にあり入学式はその体育館で行ったこと、木造の2階建ての建物が体育館の北側にあったこと、工学部の行事は全て体育館を使用していたと記憶する。

今回訪れたことで、母校が時代と共に変革そして発展しているさまを見ることが出来ました。10年後にまた会おう、それまで元気でと挨拶をし秋色の工学部を後になりました。



母校を訪ねて

建築24回卒 若狭 正伸

5月下旬、母校を訪ねる会の案内を校友会事務局から頂戴し、建築同期の湯本正利君、小原幸一君、岩崎辰夫君に連絡を取り、4人示し合わせて前日の構内施設ツアーから参加することとしました。

東京駅新幹線改札口で待ち合わせ、久しぶりの漫談に夢中になるうち郡山入り。大きく様変わりした郡山駅周辺を散策し、昔日の姿を思い浮かべるが、どこがどうだったか皆さんよくわからず仕舞い。安積国造神社を拝観して、こういう由緒あるものがあったのだと、坂上田村麻呂以前から続く郡山の歴史の古さと文化の高さを再認識した次第です。

構内施設ツアーに参加する前に都市計画の土方研究室にお邪魔し、40年ぶりにご挨拶。

足立研究室で一緒に調査に駆けめぐり廻った土方先輩は、若干白髪が混じりながらも人懐こい笑顔はそのまま

で、一瞬で40年の歳月の隔たりを忘れさせてくれました。

校友会諸氏による構内施設のツアーは、正に40年間の大学の成長と変化を目に焼き付けてくれるものでした。資料館では大学の変遷を伝える貴重な写真や機材が豊富に陳列され、新学生会館展望台からの眺めは、広大な敷地に大型施設が随所に建ち、近代的であると同時に大らかで伸び伸びとした印象があり、僅かに体育館や図書館棟、製図棟などが記憶と一致するだけで、大きく様変わりしており、大学当局と校友会の御努力が窺われました。

夜は駅近くのお店で地酒を堪能しながら、4人で久々の談義が弾みました。

翌日、同窓会場入り口では、和服姿の茶道部の面々が、きびきびとした動作で、和菓子と薄茶を振舞っており、我々も、早速一杯頂戴。とても心温まるおもてなしに感謝。

参加者のメンバー表を拝見したところ、出身地に戻り、高校教師をしていた志賀君が遠路鹿児島県から参加しているのを見つけ、また、スキークラブでいつも張り切っていた地元の藤田君、合気道部で活躍していた山下君などの名前も見つけ懐かしさで一杯。

記念写真撮影のため、本館前の広場に集合した際、同級生達の顔をあらためて拝見すると、何となく面影の残っている人、全くイメージが変わった人等様々でしたが、夫々40年という長い人生の荒波を乗り切ってきた自信に溢れた顔の様にお見受けしました。

懇親会場では、大学院で一緒に建築学の講義を受けた出村氏が学長として挨拶をされ、歓迎の言葉を述べてくれました。同級生が学長をしているのは我がことのように晴れがましい思いがしました。

同じ研究室の卒研生だった志賀君は出身校の教諭を長く続ける中で、教え子が同じ教師仲間として7人もいる話や、千葉ロッテの伊東監督が高校の教え子だった等の話を聞き、40年という年月の長さをあらためて考えさせられました。

懐かしく楽しかった懇談会も応援団の秘儀を最後に解散となりましたが、40年という時間の経過を埋めて呉れた貴重な思い出となりました。

一緒に参加した仲間と共に、再度駅前を散策して帰路につきましたが、帰りの車中も楽しく語り合いながらの旅となり、都内での再会を期して東京駅で解散となりました。

このような機会を設けてくださった大学当局と校友会諸氏、学生の方々、特に土方先輩に深く感謝申し上げます。



卒業30年後母校を訪ねる会&同窓会

電気 34回卒 渡部 一則

前回 2006 年母校を訪ねる会に参加して 10 年の時が経ち、2 回目の母校を訪ねる会に参加しました。今回も地元郡山在住の柳生さんの呼びかけで前夜に磐梯熱海温泉で同窓会を開催しました。集まったメンバーは 9 名、埼玉から同じアンテナ研究室だった井上君、ツーリング趣味でバイクで来た吉崎君、日本拳法部だった湯浅君、群馬からボクシング部だった島山君、福島で部長奮闘する和田君、地元郡山で中学校教諭の吉田君、また遠方金沢から山内君が日本酒、焼酎持参で駆け付けてくれました。特に島山君と湯浅君は 30 年振りの再会でした。皆、50 歳を超えたので当時と体形は変わり、髪の毛が薄くなり、白髪も目立ち、年齢には勝てないと思いました。柳生さんの乾杯で宴会がスタートし、酔いが回ったところで各人から近況報告。仕事、家族の状況、また会社が変わった方、病を克服した方と様々でした。私自身もこの 10 年間で転職、腹膜炎手術を経験したので、この歳になると皆同じ境遇に合っていることを実感しました。宴会が終わってからも部屋で思い出話に花が咲き、夜更けまで盛り上がりました。翌日は母校を訪ねる会に参加。北桜祭も開催されており、我々の時代から比べると女子生徒が多く目立ち、新しい建物も増え時代の流れを感じました。受付を済ませると我がアンテナ研究室の長澤幸二先生に出会いました。長澤先生は定年退職された今でも非常勤で週 2 日授業を担当されているそうで、元気なお姿を見て感無量でした。懇親会もあっという間にお開きの時間となり名残惜しい中、次回は 10 年後と言わず東京オリンピックの開催される 4 年後に吉崎君の地元新潟で同窓会を開催すべく再会を約束しました。

最後のこのような機会を与えてくれた工学部校友会関係者の皆様に感謝すると共に工学部の益々のご発展、学生、校友皆さまのご健勝とご活躍を祈願致します。



母校の“絆”を誇りとして

工化 44回卒 飯田 喜之



気がつけば卒業してから 20 年の月日が流れていた。「母校を訪ねる会」には、今回初めて参加した。大学卒業後は静岡の実家を離れ、教育に携わる仕事に就き、人生の半分以上をこの郡山と共に歩んできた。現在は福島で生活する者として、東日本大震災の「復興・再生」の加速化に寄与したいという想いがあり、前職とは異なる復興および人材育成に係わる仕事に就いている。

さて母校には、教員時代の教え子が学生としてお世話になっている。その教え子が後輩になることは、言葉では言い表せない感動がある。教え子（後輩）の中には博士号を取得し、福島の復興に欠かせない「再生可能エネルギー」分野の研究者として活躍している者もいる。また今回の「母校を訪ねる会」においては、校歌齊唱、応援歌および日大節を披露する応援団の一人もまたそれである。この学生に至っては、以前は物静かな高校生であった。しかし今では毅然とした態度で、大人としての大きな成長を垣間見ることができた。このような成長は、この二人だけではない。我が母校には、「社会に必要とされる人材育成の文化」が脈々と継承されており、多くの卒業生がそうである。これは偏に、多くの先生方、事務職員の方、友人およびOB・OGの方々がコンソーシアムを形成し、人材育成の場をそれぞれが担っているからだと感じている。このコンソーシアム（絆）こそ、母校の誇りであり、大切な文化だと感じている。

「母校を訪ねる会」の前夜、工化（44回卒）の同級生 9 名が郡山駅前で同級会を開催した。各自の近況報告では、年代的に各職場の中堅として様々な課題に苦労しながらも活躍している話を聞くことができた。またこの事実は、友人として励みにもなった。次回は多くの同級生に声を掛け、「より幅広く」且つ「より深い」“絆”が築ければ、と切に願う。

結びに、「母校を訪ねる会」に尽力されました方々に心から感謝申し上げます。日本大学工学部および校友会の益々のご発展を祈念いたします。

支部活動報告

北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は5月27日(金)に第43回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会プレミアミーホテル中の島札幌にて50余名の参加者にて、郡山より金澤工学部校友会副会長と出村工学部学部長のご臨席を賜り総会及び懇親会を行いました。今回は、まず工学部校友会の総会、そして集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。懇親会では、工学部の現状を出村学部長に報告頂きました。

工学部の就職率が薬学部をのぞき、トップとなっていること、男子寮が完成し、これから入学生に対しての教育を充実できる等のお話をお聞かせ下さいました。我々卒業生からは、卒業生を就職させてほしいとの要望が出村工学部長に多数依頼されたようです。

東日本大震災後の北海道は、東京オリンピックの需要に伴い建築土木に従事する作業員の不足の状態がかなり続いている。郡山での学生生活を思い出し、みんな元気を出して、これを乗り切り、元気いっぱいの再会を誓い日本大学の絆を・そして日本人の絆を又深める一日となり、ご来賓の皆様方とともにすすきでの二次会へと繰り出しました。

29年度は工学部北海道支部の同窓会及び懇親会に、地方支会の方々が参加できるように4月の第3週に行いたいと思います。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東

土木 20 回卒 関東支部長 小林 啓一

関東支部は東京都、神奈川県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の1都8県で構成されています。うち1都5県に、東京都校友会、神奈川県校友会、埼玉県校友会、千葉県校友会、栃木県校友会、長野県校友会を設置しています。また、茨城県、群馬県、山梨県には各県担当者を置いて活動を行っています。

本年度の活動として、7月に関東支部役員会、10月に栃木県校友会総会を開催いたしました。来年度には、神奈川県校友会総会を予定しております。そのほかの活動として、4月に本部総会、7月に関東支部父母会、8月に工科系校友会連絡会、11月に日本大学校友会全国大会、12月に箱根駅伝説明会に出席し校友との絆を深めております。

今年度も、大手町、横浜高島町交差点付近で箱根駅伝の応援を行いますので、校友の皆様の参加をお待ちしております。

最後に校友会の益々の発展と、支部活動を活性化させるためにも若い世代の参加をお願いいたします。



北陸

土木 22 回卒 北陸支部長 神林 幸夫

本年度の活動として、第16回北陸支部定時総会及び懇親会を平成28年7月23日(土)に新潟東映ホテルにて開催し、45名の方より出席をして頂きました。来賓として、校友会本部村田相談役よりお越し頂き、工学部入試志願者数が増加している事等、就職状況等のお話を頂きました。

又、例年通り懇親会には、父母会新潟県支部佐久間支部長ほか6名の父母の方より出席をして頂き、会員との交流を図ることが出来ました。懇親会では校歌、若きエンジニア等の歌を全員で歌い、昨年好評であった日本拳法部OBの若手会員から演武の披露が有り大変盛り上がりました。懇親会終了後は二次会～三次会と流れで無事総会を終了することが出来ました。9月10日(土)には懇親ゴルフ大会を「紫雲ゴルフ倶楽部」に於いて、4組(13名)で行い楽しい1日を過ごすことが出来ました。

他役員会を随時開催し、報告事項・今後の活動について意見交換を行っている事、父母会新潟県支部行事への参加が主な活動内容となっております。今後の検討課題として、会員との交流をゴルフ大会以外で暑気払い・忘年会等を開催したらという話もありましたので、考えてみたいと思っているところです。

最後に校友会、校友諸兄の益々の発展を祈念するとともに、今後とも支部活動に対し、ご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。



東 海

土木 32回卒 東海支部事務局次長 乾 高章

日本大学工学部の校友諸兄には、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

東海支部の平成 28 年度の活動は、第 44 回東海支部総会を 7 月 29 日(金)に名古屋東急ホテルにて 32 名の参加者で開催いたしました。

来賓としまして本部から工学部校友会会长の手塚公敏様にご出席いただき、学部・校友会の近況報告をされ、その後は会計報告・年間活動報告等があり原案通り可決され総会は無事終了しました。

講演会には、日本大学工学部情報工学科教授の若林裕之先生がご登壇され第 43 次南極地域観測隊に参加された素晴らしいご経験等を披露していただきました。

その後の懇親会でも和気藹々と校友の親交を深め、楽しい時間を共有することが出来ました。最後には、恒例の校歌と若きエンジニアを熱唱して、盛況のうちに閉会いたしました。

また今年は久しぶりにゴルフコンペを 4 月 23 日(土)と 9 月 22 日(木・祝)に行いました。年々年を重ねるうちにスコアが悪くなりながらも皆様奮闘して怪我も無く楽しむことが出来ました。

年末の 11 月 25 日(金)には、名古屋の繁華街である錦で恒例の忘年会を開き、今年一年を無事に過ごしたことを報告しあって、一年の締めくくりとしました。

今後も支部の活性化に努め活動いたしますが、現在の課題は、若い会員が定着しないことです。これからは、若い会員を募って若返りを図る所存です。

今後とも諸先輩たちの御厚情を賜り校友会の益々発展することを祈念いたします。



東東海

土木 27回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

東東海支部の総会・懇親会は静岡県を 3 つのブロック東中西に分けて開催されます。大まかに言えば静岡県を流れる富士川と大井川を境に富士川より東を東部、富士川から大井川までの間を中部、大井川より西を西部に分けてそれぞれで支部を作って運営していただいている。今年度は西部で平成 28 年 7 月 22 日の金曜日に浜松にて開催しました。今、2017 年大河ドラマ「おんな城主 直虎」で有名になっている場所です。戦のたびに当主を殺され、ただひとり残された姫が「直虎」と勇ましい名を名乗って乱世に立ち向かい、自ら運命を切り開き、戦国を生き抜いた女の激動の生涯を描く作品です。この西部地区には『やらまいか』精神が根強く残っています。とにかく考えることよりも動くこと、この地区はそれで発展をし、県庁所在地をも凌ぐ勢いをもっています。ここでの総会・懇親会ではいつも勇気と元気をもらって帰ってきます。何より、西部の方々が前向きで、発言する言葉がすごいのです。それぞれにこの静岡県ですら地域によってそれぞれの良さがあります。自分も思い起させば大学時代の 4 年間を東北の福島県郡山市に在住した貴重な体験が今の自分をつくっています。お世話になった先生方も次々に退官し、気が付けば自分も定年の歳を迎えていました。もう、先輩よりもはるかに後輩や教え子の方が多くなり、みんな立派に育っています。多くの都心の大学が縦のつながりが希薄になる中で、我が工学部はずっと縦のつながりを大事にしてきました。会社に入れば、同期は少なく、圧倒的に多いのは先輩、後輩です。仕事のできる、できない、かは、やる、やらないか、また、どんな心持で働くかが大きいのです。アドラーの心理学の本がブームになっていますが、共同体感覚という思想、人間だけが持つ分業制、人間はその弱さゆえに共同体をつくり、協力関係の中に生きています。この校友会も東東海支部もその一つです。ひとのために貢献することが幸せと考える、まさにそのとおり、わたしが…が…われわれが、になるのです。出会いをなにかしらの関係に発展させるには一定の勇気が必要です。この勇気が大切な第一歩なのです。この大学の校友会に参加することも大きな勇気だと思うのです。そこから発展するのが共同体感覚です。お互いの自己中心性からの脱却、先輩を敬い、後輩を信頼し、お互いを支えていく、組織とはそういうものだと思います。支部長職も長い間務めさせていただきました。そろそろ自分の役目も終わりだと思います。生意気な文を書かせていただきました。ますますの校友会の発展を願っています。



四国

建築33回卒 四国支部事務局長 畑内 清二

平成28年度四国支部総会は、7月30日(土)に校友会本部より手塚会長をお迎えして、徳島県より3名、愛媛県より2名、高知県より1名、香川県より15名の21名の出席により、居酒屋“はんぶん”に於いて六車四国支部長(土木16回卒)の進行により開催されました(写真1)。又、10月29日(土)には、四国支部愛媛県校友会が、永井次郎会長(建築14回卒)のもと、18名(内2名は四国支部より)の方の出席で、松山市内で開催されました(写真2)。四国支部では、四国内の交通の便が少し悪いことから、各県校友会を設けて、きめ細やかな親睦を図っています。この後も徳島県、高知県、香川県の校友会の開催を予定しております。毎月第一木曜日の「一木会」も引き続き開催しておりますので、いつでもお気軽に立ち寄り下さい。



写真1



写真2

九州

建築38回卒 九州支部事務局 三好 誠

昨年平成28年10月14日(金)に、第36回日本大学工学部校友会九州支部総会を、福岡市中央区にあります「平和樓本店」で開催いたしました。九州全域の案内に福岡近郊以外、長崎、佐賀、北九州から総勢32名の参加でした。総会は脇山支部長(建56卒)の挨拶から始まり、事務局より年間の活動報告及び、後藤先輩(機59卒)から会計報告があり、懇親会へ入りました。懇親会開催の挨拶におきましては、校友会手塚会長に、郡山より出席していただき、第二の故郷である郡山、そして母校の近況を教えて頂くことができました。また、当日たまたま同会場の階下にて三桜会が開催されており、一部の方のサプライズ参加、日大校友会福岡県支部長藤井克己さんからのご挨拶も頂きました。懇親会は、円卓盛り形式での会食でしたが、出席最年長で、本部校友会の役員でもある山下先輩(建43卒)の乾杯のご発声後、皆さまは、ビールを片手に各テーブルを回って、学生時代等の話で盛り上がっていました。2時間の懇親会もあっという間に終わり、全員で「校歌斎唱」と、ご当地恒例の「博多祝いめでたし」「博多手一本」そして集合写真では、皆さまの携帯での写真撮影もあり、予定しておりました会の時間よりかなり押していたようでした。後程の話では、2、3次会も有り中州でも会長他、かなり盛り上がったとのことです。今後も支部が活性化し、転勤等で九州に来られた方も、数多くの方が総会に出席していただけるよう、ご案内いたしております。また、就職や転職などの相談もあれば、お気軽に事務局まで声かけ頂けるように御願いいたします。



※今回総会を行った天神の平和樓本店3階「てんじん」で毎月第三木曜日の18:30~「アカシヤ会」と銘打って5~10名の懇親会を行っていますので思い出した時に立ち寄ってください。懐かしい郡山の話、子供や孫の話、就職や政治経済の話など幅広く楽しいひと時を過ごしています。

教員部会

工化33回卒 アカシア教育研究会事務局長 阿部 英敏



『教員部会(アカシア教育研究会)懇親会』報告 ~深まる学部の先生との“縊”~

平成28年12月3日(土)「第59回学術研究報告会:教育に関する部会」で校友教員が実践的な研究成果を多数報告しました。終了後、郡山ビューホテルに移動し「教員部会(アカシア教育研究会)懇親会」が83名の参加で開催されました。出村克宣工学部長、手塚公敏工学部校友会長をはじめ各学科の主任教授、多くの先生方にもご参加いただきました。開会後、出村工学部長より“学術研究発表会並びに懇親会への多くの校友の参加への御礼と工学部の近況談”をいただきました。校友会手塚公敏会長からは、教員部会(アカシア教育研究会)の“工学部への入学生支援、全国的な教務を通しての連携等が本学と校友のつながりを深めており、今後も校友会として支援していきたい”との言葉をいただきました。渡邊秀雄先生の音頭による乾杯の後、本学の先生方と校友教員が相互に情報交換をし、懇親を深めました。次年度は、本会関根敬次会長(工学部教職:建築16回)のもと、福島県の会員を中心として運営しますので、ご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成29年度アカシア教育研究会会長に北海道支部長 高崎格先生(建築工学科第14回卒)が各支部の推薦を頂き満場一致で就任することになりました。高崎先生には、本会発足時の全面的なご支援と北海道支部の設立にもご尽力頂きました。今後も教員部会(アカシア教育研究会)では、母校工学部の発展と教職養成の充実のため活動ていきたいと思います。

工学部NEWS

●学生募集

工学部では、自分の得意を活かせる多彩な入試制度を設けております。身近に大学受験を控えている方がおりましたら、ぜひ「日本大学工学部」への進学をご検討下さい。

【入学試験に関するお問い合わせ先】

日本大学工学部 入試係

TEL 024-956-8619

(平日／9:00～17:00 土曜／9:00～13:00)

FAX 024-956-8888

E -mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

※入学試験の詳細については工学部ホームページの
「入学案内」をご覧下さい。

●工学部教員定年退職者

(平成 28 年 1 月～12 月)

建築学科 三浦 金作 (平成28年3月31日)

電気電子工学科 天野 耀鴻 (平成28年3月31日)

生命応用化学科 平山 和雄 (平成28年3月31日)

総合教育 マイケル ナイバーグ

(平成28年3月31日)



●工学部平成 29 年度行事予定

教養講座

講演月日	講 師	演 題
5月18日(木)	俳優 山下 真司 氏	私と芸能界との歴史 ～俳優人生40年の軌跡～
5月25日(木)	和歌山大学教育学部 大学院教育学研究科教授 江利川春雄 氏	アニメ映画の日英比較で異文化を理解する
6月1日(木)	NHK エンタープライズ 制作本部 国際番組エグゼクティブプロデューサー 松平 保久 氏	戊辰150年 会津のこころ
6月8日(木)	武蔵野学院大学・大学院教授 人間性脳科学研究所所長 澤口 俊之 氏	夢かなえる脳

オープンキャンパス

日 時	名 称	主 な 対 象	プロ グラム
7月17日(月)祝日 9:30～16:30	保護者向け大学見学会 2017	高校生の父母、高校教諭	授業参観、学部・学科ガイダンス、個別相談、学食体験
8月5日(土)・6日(日) 9:30～15:30	オープンキャンパス 2017	高校生及びその保護者	学科紹介・相談コーナー、体験授業、学科別見学ツアー、入試全体説明会等
9月10日(日) 9:30～14:30	受験生のための オープンキャンパス 2017	平成30年度入試受験生	学科紹介・相談コーナー、学部説明会、個別相談等
10月28日(土) 10:30～16:00(予定)	ミニオープンキャンパス 2017	小中学生及びその保護者	オモシロ体験コーナー、資料配布ブース
10月29日(日) 10:30～14:00(予定)			

●平成 28 年度課外活動結果一覧

サークル名	大 会 名	結 果	詳 細
ソフトボール部	第 37 回北海道東北地区大学男子ソフトボール選手権大会	2 位	
射 撃 部	第 69 回福島県総合体育大会	3 位	10mS60M 露木 一心
		3 位	10mS40M 松本 瑠奈
		1 位	50m3×20W 菊地 映美
		2 位	10mS40W 菊地 映美
	第 38 回東北三県対抗ライフル射撃選手権大会	1 位	10mS40W 松本 瑠奈
		2 位	50m3×20MW 菊地 映美
		1 位	10mS40W 菊地 映美
	第 38 回福島県ライフル射撃選手権大会	1 位	50m3×20MW 菊地 映美
		1 位	50m3×20MW 菊地 映美
	平成 28 年度東北・北海道ライフル射撃競技選手権大会	1 位	50m3×20MW 菊地 映美
弓 道 部	第 67 回東北地区大学体育大会	3 位	男子団体
		2 位	椎名 亮介
	第 11 回東北地区学生弓道選手権大会	1 位	荒木田 優哉
	第 56 回東北地区秋季学生弓道大会Ⅱ部リーグ	3 位	荒木田 優哉
		2 位	団体
	第 69 回福島県総合体育大会	3 位	団体
	第 64 回全日本学生弓道選手権大会	2 位	荒木田 優哉
	第 12 回福島県学生弓道選手権大会	1 位	男子団体
		2 位	女子団体
卓 球 部	平成 28 年度郡山卓球選手権大会	2 位	女子団体
洋 弓 部	第 69 回福島県総合体育大会	2 位	30・30 佐原 悠矢
		3 位	30・30 原田 忠幸
		3 位	70m 菊田 哲平
	第 48 回東北学生アーチェリー新人選手権大会	1 位	菊田 哲平
	第 1 次 福島県インドアアーチェリー公認記録会	3 位	菊田 哲平
	第 42 回福島県ターゲットアーチェリー選手権大会	3 位	70m 野塙 一樹
陸 上 競 技 部	平成 28 年度日本大学体育大会	1 位	男子1500m 津藤 圭祐
		2 位	男子1500m 伊藤 和輝
		2 位	砲丸投げ 羽田 哲郎
		2 位	男子総合
	田村市ビートル駅伝大会	2 位	日本大学工学部
	福島県南陸上選手権大会	3 位	男子400m 八巻 翔
		2 位	男子4×400mR
空 手 道 部	第 67 回東北地区大学体育大会	3 位	男子団体組手
	第 16 回東北大学空手道選手権大会団体戦及びに新人戦	3 位	男子個人組手 菅原 元気
	練会東北大会	2 位	菅原 元気
		3 位	大塚 勇佑
		3 位	小林 智也
バレーボール部	平成 28 年度日本大学体育大会	3 位	
柔 道 部	平成 28 年度日本大学体育大会	3 位	
水 泳 部	福島県大学対抗春季水泳大会「大沢杯争奪戦」	2 位	男子の部
		2 位	男女総合
アメリカンフットボール部	40th2016 東北学生アメリカンフットボールリーグ戦	3 位	

校友会NEWS

電気主任技術者第3種国家試験対策講座の開講



平成28年8月29日(月)から9月1日(木)の4日間、学生への就職支援として「電気主任技術者第3種国家試験対策講座」を開講しました。電気電子工学科の学生を中心とした受講生に、過去問題の解答、説明を行いました。

今は資格を有することで、就職活動を有利に進めることができます。校友会としても資格取得のための手助けをしていきたいと考えておりますので、今後も本講座を継続してまいります。

北桜祭実行委員会への支援

北桜祭実行委員会からの物品協賛の要請を受け、北桜祭来場者に無料配布する「お菓子」を提供しました。今回は昨年度よりも数量を増やして700個。内容もクッキーの他に、今回の北桜祭テーマ「咲」をイメージした花を設えたクリップも加えました。

製造は「特定非営利活動法人こんぺいとうの会 ほっこり café まあぶる」に委託し、「協賛：日本大学工学部校友会」のシールを貼り付けました。

北桜祭のアンケートに答えてくれた来場者を対象に、北桜祭実行委員会の学生によって配られました。



学術研究報告会「喫茶コーナー」の提供

平成28年12月3日(土)に開催されました「第59回日本大学工学部学術研究報告会」会場に、前年度に引き続き「喫茶コーナー」の設置を行いました。ご用意したコーヒーはすべてなくなり、大変ご好評をいただけたと思っております。

次年度以降も継続していくので、学術研究報告会にご参加される皆様は、ぜひご利用下さい。



学術研究報告会「発表支援金」について

校友会では学術研究報告会で発表する校友に対し「発表支援金」の支援を行っております。今年度は以下の方々に支援しました。

(敬称略)

氏名	卒科 / 回	発表・報告演題
大澤 俊幸	土木 27	教員生活を終えるにあたって 一何が大切なのかー
高梨 雅志	土木 44	通信制高等学校における数学科教科指導法について
太田 敬済	土木 50	探究型学習によるたくましい高校生育成事業～青森工業高校 都市環境科の取り組み～
平澤 大輔	土木 59	工業高校における SSH の実践
浦 憲親	建築 18	壁土のニオイ吸着に関する基礎実験 その3
横尾 聰	建築 28	上越総合技術高等学校における進路指導
池上 邦彦	建築 32	工業高校におけるデザイン教育－マインドマップの活用報告－
油井 敏和	建築 45	生徒一人一人の自己有用感を高める生徒指導の工夫（その2）
田畠 剛	建築 52	技能検定等への取組みの現状について
仲野 一樹	建築 55	生徒会活動におけるキャリア教育の実践
工藤 俊喜	建築 60	ICT や模型を活用した「分かる授業」の実践
千葉 祐揮	建築 60	工業教育Ⅲ～定時制教育における学びなおしの実践と課題～
大石 祐太	建築 61	総合的な学習の時間への取り組み－土木設計競技に参加して－
高木 行博	機械 29	工業高校におけるものづくり教育
宇佐美 浩	機械 30	選挙権年齢引き下げに伴う、「主権者教育」について
津島 節	電気 36	キャリアノートを活用した本校の取り組みについて
浅野 猛	電気 37	本校生徒の実態に即した特色ある生徒指導の取り組み
小林 邦之	電気電子 52	魅力ある工業高校～志願者増の取組～
櫻木 孝喜	電気電子 55	工業科と教育
田坂 優太	電気電子 57	合理的配慮に関する紹介と考察
樋口 広宣	電気電子 57	品質管理 (QC) 検定4級の紹介と今後の取り組み
篠崎 拓也	電気電子 60	初任者研修から考える工業高校の現状と課題
佐藤 憲幸	生命 62	工業高校で学ぶ生徒の現状 I ～静岡県立浜松工業高校 システム化学～

●三世代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では「母校を訪ねる会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代（祖父母、父母、孫）に渡って卒業した校友をお招きし、表彰しております。

該当される方は、下記の要領で対象者を募集しますので、どうぞ奮ってご応募下さい。

1. 応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り、専門部及び第二工学部、工学部を卒業した者（自薦・他薦は問いません）。
※但し、昭和41年4月の学部名改称以前の工学部（現理工学部）の卒業生は含みません。
○直系にはこだわりません。例：「母方の祖父・父・孫」などでも可。
2. 応募方法 「ハガキ・FAX・校友会ホームページのお問い合わせフォーム」にて受け付けます。
○いずれの方法も必ず「3人のお名前・卒業年・卒業学科・ご連絡先（ご住所・お電話番号）」を明記して下さい。書式は指定しません。
3. 応募締切 平成29年7月21日(金)
4. その他 資格対象者には、後日、ご案内をお送り致します。

●課外活動への支援

体育会・学術文化サークル連合会所属の14団体に課外活動支援金の援助を行いました。各団体から寄せられた感想と今後の意気込みを紹介します。

支援団体からの感想

団体名	感想
空手道部	今年は全日本大会が第60回の記念大会で、全日本に正式に加盟をしている大学は団体戦に出場できるということでした。今回の支援金があったことによって学生への負担をより少なくて出場することができ、とても助かりました。今年は多くの大会に出場し、成績を残すことができました。来年以降はもっと上位を目指していくように練習に取り組んでいきたいと思っています。次にもこのような機会がありましたらぜひお願いしたいと思います。
射撃部	今年度も課外活動支援金をいただき、誠にありがとうございました。ご支援のおかげで、多くの大会に参加すると共に、福島県ライフル射撃選手権大会や東北総合大会で優勝という結果を残すことが出来、大変感謝しております。来年度も日本大学工学部の射撃部として、良い結果を残せるよう、日々努力して参ります。今後ともよろしくお願ひ致します。
洋弓部	支援金の補助により、昨年以上の戦績を残すことができ、多くの大会にも参加することができました。また、各部員の技量も向上し、特に10月に行われた新人選手権大会においては、優勝することができました。これは、支援金により備品を拡充することができ、練習の質が向上したことが要因の一つとして挙げられます。来年度は今まで以上に練習に励み、今年度以上の戦績を残したいです。
硬式野球部	この度は、課外活動支援金を支給していただき、ありがとうございました。支援金は遠征の際の宿泊費の一部として使わせていただきました。リーグ戦等の遠征で出費も多く、部費のみでは運営が厳しいため、大変助かりました。今後は各種大会において、結果を残せるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
ソフトテニス部	今年度は、東北学生リーグにおいて、二部に昇格し、日々の練習の成果が発揮されたと思います。また、地方ローカル大会への参加も増え、入賞することができました。現在は部員全員で二部残留、一部昇格を目指し、今後の練習に取り組んでいきたいです。近年、部員が多く入部してきていますが、支援金のおかげで、ボールや部で統一されたユニフォームなどを購入することができ、有意義な練習から大会への参加、大会での結果に繋がってきていると思います。この度は、ご支援していただき、ありがとうございました。
サッカー部	2015年度總理大臣杯は1回戦敗退というふがいない結果でしたが、2016年度總理大臣杯は3回戦進出という目に見える成果があり、来年度への期待が持てました。また、支援金により登録費に余裕が出て、他の部品など練習環境がより良くなりました。
バドミントン部	今年度は部費が少なかったのですが、支援金のおかげで、シャトル、大会参加費を出す事ができ、練習などがしっかりとできました。戦績は、良いものではなかったですが、来年度は2部に戻ることを目指し、がんばりたいと思います。
アメリカンフットボール部	助成金で新しいボールやテーピングを充分購入することができ、非常に助かりました。私たちアメリカンフットボール部は今現在、2部に所属しており、今年は1部昇格まであと1歩のところでチャンスを逃してしまいました。今年の悔しい思いをバネに来年こそは1部昇格を実現させたいと思います。
茶道部	今回の支援金は丸卓や葉缶など、茶道の稽古を行うために必要な道具を購入するために使わせて頂きました。茶道部は再興したばかりで必要な道具が足りず、稽古に支障をきたしている状況であったので、今回一部の道具が増えたことにより、また一步進展することが出来たと思っております。これからは道具が増えたことで稽古の質もより高度なものになっていくと思われますので、これまでよりも一層励んでいきたいと思います。この度はまことにありがとうございました。
管弦楽部	支援金援助を頂きまして、ありがとうございます。本年度は予定していた予算より少ない支出で済んだ部分もあり、備品の買い足しや楽器の修繕等によるお金の心配があまりなく、安心して活動に取り組むことができました。今後の活動に関しまして、本年度参加することができなかつた演奏会への参加や技術力の向上を目指すとともに、定期演奏会開催へ向け、練習に取り組みたいと考えております。次年度には、音楽や弦楽器の経験が豊富な先輩方が卒業され、弦楽器の経験があまりない部員が多くなり、技術面で苦労することが予想されます。そのような状況ではありますが、先輩方の手助けをいただきながら、新入生も交え、演奏会の成功や新たな演奏会の企画もできればと思います。
動画漫画研究会	今年初めて支援を頂きました。同人誌の印刷やセル画のインク代は非常に高く、今回頂いた支援金のおかげで、前年度以上に部として行いたいことを十二分に達成することができました。我が部は歴史のある部です。今後ともたくさんの活動をし、新たな体験や経験を積みたいと思います。ありがとうございました。
美術部	支援金により、部費に余裕ができるため、足りなかった画材、備品などを購入することができ、北桜祭などの作品制作に励むことができました。
赤十字奉仕団	福島県内外を幅広く活動している私たち、赤十字奉仕団ですが、本年は団員数に対して学文連から予算がつかない状況にありました。そのような中で校友会から支援金を受けることができ、本当に助かりました。そのおかげで保険に全員加入することができました。これにより、団員が安心して活動することができています。また、障害者スポーツの補助員として、全国大会に行くことができ、本当によかったです。今後も様々な活動を通じて社会貢献を行っていきたいです。
写真部	暗室用品の高騰、プリンタインクの値上げ等により、年々活動費が高くなっていく中でこのような支援金は大変ありがたく、活動の助けになりました。今年度中もあと2回の暗室講習と2回の学外写真展を予定しております、来年度以降も積極的に活動していきたいと考えています。

●住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報お願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

●校友会賞受賞者

平成28年3月25日(金)に開催された日本大学工学部卒業記念パーティーにて以下の4名に校友会賞の授与を行いました。

酒井 直人 (情報) 体育会第46代委員長
神山 遼 (情報) 学術文化サークル連合会
涌井 靖章 (機械) 第64回北桜祭実行委員会
齊藤 雄輝 (機械) 懇親團第58代団長

●機械19回卒業生同級会からの寄付金

機械工学科19回卒業生同級会様より、寄付金を賜りました。当寄付金をもとに事務局の備品購入に充てさせていただきました。

心よりお礼申し上げます。



●日本大学工学部校友会

会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略 平成28年2月1日～平成29年1月31日)

● 62回卒		電気電子 関山 榎太		情 報 小田 築			
● 63回卒							
土木 建築 機械		内山 尚大 富澤 渉 坂内 明 矢部 耕洋 牛崎 貴仁 遠藤 達也 菊地 千尋 松井 美樹 足立光太郎 伊佐治有亮 大内幸之助 小野寺陽大 長棟 廣成 南場 拓 萩原 崇史 平野 弘祐 齊藤 雄輝	電気電子 生命応用 情 報		佐瀬 真悟 橋本 皓輝 池田 紀太 関口 真裕 武田 拓也 藤井 智紀 宮堂 誉生 山下 勇一 星野 優人 稻部 大貴 川嶋 修平 熊谷 彰展 慶野 弘樹 小鹿 敦史 馬場 祐治 稻本 雅人 小河原一之		

●支部連絡先一覧

支部名	所在地
北海道	
北陸	
関東	
東東海	
東海	
四国	
九州	
教員	

平成26年度版会員名簿販売中

「平成26年度版会員名簿」を販売中です。名簿の他に資料のつまつた一冊に仕上りました。販売価格は6,000円(送料込)です。お求めの際は事務局までお問い合わせ下さい。



日本大学工学部校友会員各位

平成 29 年 3 月 1 日

校友会会长 手塚 公敏

平成 29 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 29 年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成 29 年 4 月 22 日(土) 13 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
3. 議 題／(1) 平成 28 年度会務報告および決算報告
(2) 平成 29 年度事業計画および予算審議
(3) 役員改選
(4) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第 37 回 母校を訪ねる会

日 時／平成 29 年 10 月 29 日(日)
場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
(ハットNE) を予定
対 象／第 15 回卒業生 (昭和 42 年 3 月卒業)
第 25 回卒業生 (昭和 52 年 3 月卒業)
第 35 回卒業生 (昭和 62 年 3 月卒業)
第 45 回卒業生 (平成 9 年 3 月卒業)
第 55 回卒業生 (平成 19 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となります
が、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・
成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐か
しい一時をお過ごしください。この日は第 67 回北桜祭開
催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご
一報頂ければ幸いです。
卒業後 50 年以上の校友全員も招待対象としています。
どうぞ御来校下さい。

校友会報 第 80 号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発 行 部 数 51,000 部

発 行 日 平成 29 年 3 月 1 日

発行責任者 校友会会长 手塚 公敏

編集責任者 編集委員長 土方 吉雄



この印刷物はベジタブルオイルインキを使用しております。